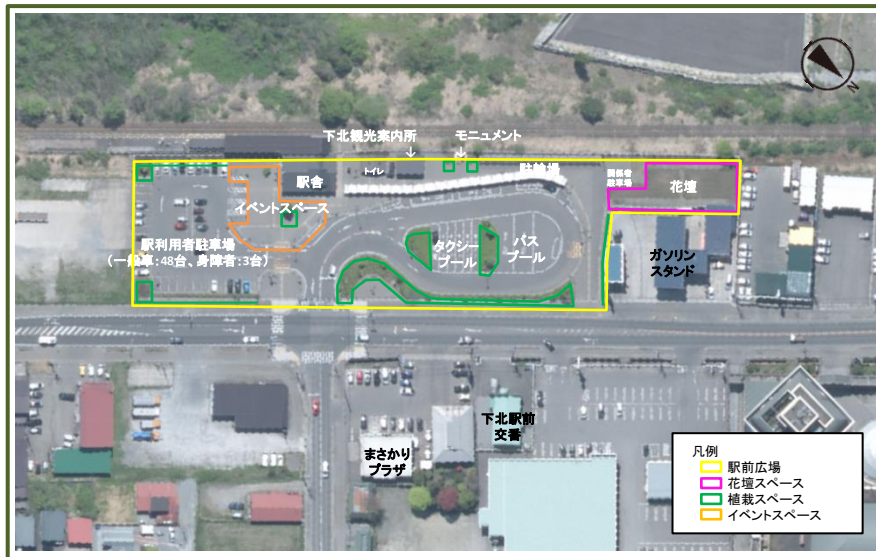


下北駅前広場～花いっぱい！市民や旅人がほほえむ駅前広場～

位置図



駅の特徴

平成21年度に新駅舎の供用が開始された下北駅は、本州最北の「てっぺんの駅」として交通の結節点及び下北半島の玄関口として重要な施設となっています。

現況：整備当初のままの植栽

広場内の一部（モニュメント周辺・ガソリンスタンド脇の歩道沿い）は、ボランティアの皆様と一緒に一年草を植えていますが、駅正面や道路沿いにある植栽スペースは樹木中心で、花による彩りが少ない状況となっています。北西側には400㎡ほどの花壇スペースがありコスモスを植栽していますが、花着きが良くなく目立たない場所ということも十分に活用できていません。加えて、敷地内に植えてあるドウダンツツジは剪定や雪囲いなど、経常的な維持管理経費がかかっています。

目指す姿：人と人をつなぐ結節点

これまで、場所と場所をつなぐ“交通の結節点”として重要な役割を担ってきた下北駅ですが、これからは場所と場所のみならず、ひととひとをつなぐ“交流の結節点”として、イベント開催や花とみどりによるコミュニケーションインフラとしての機能も備えた駅前広場を目指します。

管理の方針

花の彩り溢れる、持続可能な駅前広場とします。

下北駅前コミュニケーションガーデン

彩り溢れる駅前広場とするため、花壇や植栽スペースのリニューアルを図ります。下北駅が整備された当時、地元住民により設立された下北駅周辺整備促進協議会が設立され、コスモス畑の管理などの環境美化活動や観光案内所横にあるモニュメントの設置など、下北駅に関する様々な活動が住民主体で行われていました。これからも、協議会が行っていた“市民による環境美化”の想いを受け継ぎ、花の彩りで観光客をもてなすため、花を植えることができるスペースを広げるとともに、長期的な維持管理を市民の皆様と一緒に「SCGs（サステイナブル・コミュニケーション・ガーデン）…下北駅前コミュニケーションガーデン」として維持管理していきます。

<花壇・植栽スペースの再生>

まずはシンボルツリーのヒバが1本植えてある駅舎前の植栽スペースを“ヒバを活かしたコミュニケーションガーデン”にリニューアルする社会実験を行います。

その後、社会実験で得た課題をもとに、敷地内各所の植栽スペースに取組を拡大していきます。ナナカマドやドウダンツツジなどの樹木中心のスペースも、花を中心とした植物にリニューアルすることで、彩り溢れる下北駅前広場を目指すとともに維持管理経費の縮減を図ります。

花の種類は、下北半島やむつ市を代表するハマナス<sup>\*1</sup>、ノカンソウ<sup>\*2</sup>など北国むつ市ならではの花を積極的に採用します。

※1 ハマナスは“ジャパニーズローズ”ともいわれ、花に香りがあり、果実も楽しめることが特徴です。なお大湊線は「はまなすバイライン大湊線」という愛称がつけられており、各駅には“ハマナス色”の駅名標が設置されています。

※2 ノカンソウは釜臥山に植生しているコリ科の多年草で、強い生命力を持ちますが、生息地が狭くなりつつあることから、青森県の絶滅危惧種に指定されています。むつ市では花のまちづくり実行委員会が中心となって、地域一丸でノカンソウを増やす取組を行っています。

スケジュール

	2020	2021	2022	2023	2024
下北駅前 コミュニティガーデン	社会実験 →		取組スペース拡大 →		

イメージ



ハマナス



ノカンソウ